

(別紙)

平成24年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名:解体木造建築物の構造材再利用促進の基礎的研究事業(古川工)

事業実施予定期間:平成20年度から平成24年度

担当課室名:高校教育課

担当班名 キャリア教育班 TEL: 3625

e-mail ko-kogyo@pref.miyagi.jp

1 事業の目的

建設の産業廃棄物の発生抑制や、リサイクル産業の振興並びに循環型社会について、専門高校生として取り組むことのできる実践教育として、各関係団体からの支援を受けながら、解体木造建築物の構造材再利用促進のための基礎的研究を行う。

2 当該年度の実施事業の内容

解体予定の木造建築物の部材を取り外し、再利用可能な材料としての補強方法を研究しながら規格材に加工し、木工機械を活用した製作型研究を行った。特に、東日本大震災を経験した生徒の考えを反映させ、避難所などで活用できる物品の製作を行った。

○避難所内での活用を考えた簡易間仕切り(コンビネーションパネル)の製作

○屋外用簡易避難ハウスの試作

○避難所での高齢者利用を考慮した木製椅子の製作

○製作段階で排出されるカンナくずの利用(宮城県農業高校へ家畜の敷きわら材として提供)

事業取り組みに際して、宮城県大崎高等技術専門学校や木工建具職人と連携し、専門的知識の学習と作業体験及び技術・技能指導を受けた。

産業廃棄物の処理状況等現場見学と、専門講師の指導による設計・製作工程を通じた実践的学習で、地球環境に配慮した今後の産業活動に関与できる人材の育成に努めた。

3 当該年度の実施事業の成果

○災害発生時に避難所等で活用できる簡易間仕切りや木工家具の製作を通し、廃材(再生利用可能な木材)のリユース推進が図れた。

○宮城県環境生活部資源循環推進課主催の「3R文化祭」に参加し、リユース・リデュース・リサイクルの理解を深めたことが認められ、「優秀賞」を受賞した。

○現場見学と専門的講師からの指導による実践的学習を通し、地球環境に配慮した今後の産業活動に関与できる人材の育成を図ることができた。

○地域の職業訓練校や企業との連携・協力体制が構築できた。

4 今後の展開

○廃材の継続的な確保が必要である。また、将来的に再利用可能な材料としてストックし、新築・改築材料として供給するリユース材木店の設置に向けて関係機関との検討を進めたい。

○これまでに地域の各種団体や企業と構築した連携・協力体制を活用して、継続的な人材育成を図りながら、解体材料の提供や各種現場見学・実習場所等を確保するためには、今後も学校と地域の連携や協力体制を維持していく何らかの事業が必要である。今後、検討していきたい。

○今回製作した簡易間仕切り・木工家具を地域防災を進める団体(町内会など)に寄付し活用していただけよう関係機関と調整していきたい。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

(指標:関連授業時数)

単位:時間

平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
99	268	340	245	震災により延期	249

6 事業費の推移

単位:千円

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
7,221	3,096	3,011	震災により延期	2,851